



WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会会報

No.16 October 10, 2009

QUESTION BOX SUPPLEMENT

QUESTION BOX への質問

質問者：安藤雅彦

佐川編集長からの課題は、これまでとは趣向を変え、出題者にも笑いのツボが解らないジョークを提出すること。なぜか安藤がこの「大役」に抜擢された。

下記のジョーク、すべて可笑しいはずなんですけど、正直僕にはさっぱり笑えない！

出題者の心配は、笑いのツボが解明されても、あまり笑えないジョークかもしれないこと。そこで「5題ほど」とのご指定でしたが、すべてが可笑しくないとカッコがつかないので、9題にしました。

みなさん、可笑しいやつを選んで話題にしてください。なお9)は例外で、これまでの趣旨のチャレンジです。

- 1) It's sad how whole families are torn apart by simple things, like wild dogs.
- 2) A reporter asked Mahatma Gandhi (1869-1948), "What do you think of Western Civilization?" Gandhi replied, "I think it would be a good idea."
- 3) The barman looked up casually from wiping the counter as two pink elephants marched into the pub. "Sorry, chaps," said the barman with a smile, "but Michael hasn't been in this evening."
- 4) Then there was the elephant who drank so much he started to see pink people.
- 5) One of our foreign correspondents swears that he heard the following station break in Israel: "This is Radio Tel Aviv, 1500 on your AM dial, but for you 1498."
- 6) "Waiter-hic-bring me a dish of prunes." "Stewed, sir?" "Thash none of your business."
- 7) Tired of the waiting at the back of the line to get on Noah's Ark, a flea jumps from one animal to another as she moves closer to the front. She leaps and leaps until she lands on the back of an elephant. The pachyderm turns to its mate and says testily, "I knew it! Here they go with the pushing and shoving!"
- 8) A man is driving happily along when he is pulled over by the police. The copper approaches him and politely asks, "Have you been drinking, sir?" "Why?" snorts the man. "I see there a fat bird in my car?"
- 9) While giving a physical, the doctor noticed that his patient's shins were covered with dark, savage bruises. "Tell me," said the doctor, "Do you play hockey or soccer?" "Neither," said the man. "My wife and I play bridge."

ENTER THE JOKERS (in order of arrival)

服部 陽一

ここに提出された各題は、かなりニアブック、あるいは日本ではあまりお目にかからない事象をテーマにしたものが多く、これらを普段見かけたり聞いたりしていないとあまり笑えないと思います。以下は小生がジョークとして理解した範囲での解釈です。

1) アメリカのハーブロックバンド Ed Gein のデビューアルバム“*It's a shame that a family can be torn apart by something as simple as a pack of wild dogs.*” に準えたもの。



ジョークとしては、like wild dogs の前にカンヤがあるなので、「家族が簡単な問題で野犬のようにバラバラになってしまおうとは悲しいこと…」となる。

因みに Ed Gein は映画「サイコ」や「悪魔のいけにえ」のモデルとなった連続殺人犯の名前をとったもので、猟奇的殺人を行った犯人が言っているようでもあり、少し気味が悪いところもある。

2) Mahatma Gandhi の答え “I think it would be a good idea” は Western Civilization についてどう思うかという質問の仕方が good idea であり、これを British Civilization あるいは American Civilization についてどう思うかと質問したら、物議を醸したでしょうねという意味を込めて答えた。レポーターはどう理解したのか…。

3) ピンク色の象かバーにやっつて来たので、バーテンダーが「残念だけど今夜はライケルは来てないよ」と答えた。バーテンダーは酒に酔っていて、幻覚の Pink Elephant が見えたため、アニメ Pink Elephants の作者ライケル・ボーンは居ないと言った。

4) 人間は酔うと幻覚としてピンクの象が見えるが、象は酔うとピンクの人間が見えるらしい。

5) 我社の特派員が確かに聞いた Radio Tel

Aviv の意味不明のステーションプレイーク。「これは、「こちらはラジオテルアヴィア、AM1500 サイケルに合わせてね。1498 人のあなた達以外は…」という意味。

1498 人は当時のパリスチナ在住のイスラム教徒の人数。

6) 酔っ払いがレストランに来て、ブルース料理を注文した。ウェイターが「煮た方にしますか (Stewed?)」と聞いたが、その酔っ払いは、「へべレクですね (As stewed as a prune)」と言われたと思い、「お前の知ったことか！」となった。Stewed だけでも酔っ払いという意味があるが、特にへべレクになると prune を煮たようになるらしい。

7) ノアの方舟に乗るための長い列の最後尾にいたノミが、次々に前の動物に飛び移りながら、象の背中の上に辿り着いた。

象は「この辺はまったく押し合いへし合いなんだから！」と仲間にすねた。背中にノミが乗ったのをぼやいている大きな厚皮動物の様子が可笑しい。

8) これは酒気帯び運転の取り締まりを厳しくしたため、それを皮肉る新聞のカトゥーンを用いたもの。

このカトゥーンは、車を停車させた警官が、「あなたの車にはブスな女の子 (fat bird) が乗っているの…」と言っている。カトゥーンには実際にブスな女の子が描かれているが、ともかく何か屁理屈をつけて車を止めてチェックする警官を皮肉っている。このジョークでは、車を止められた男が「俺の車の中に Fat bird でもいるの？」と聞いている。

9) これはストリートに面白いジョーク。夫婦でコントラクトブリ



ッジをやる時、必ずケソカになる。互いに相手が下手だ、あの時へ

マをしたと言いかうことになるが、特に奥さんの方が怒って夫を罵ることが多い。ブリー中の場合でも我慢できず、テールゲルの下で夫の向こうすねを失った靴で蹴りまくるので、夫のすねはサッカーやホッケーをやったかのようになる。

宮本 倫好

crossword puzzle の guru である安藤さんが「自分でも分らない」と称する出題だけに難問揃いで、当方の石化化した頭脳には厳しい試練でありました。「やはり英語のジョークは奥が深い」という感を新たにしましたが、解答の方は、となると、残念ながら自信はありません。どうか愚答をご容赦下さい。

1) 「野犬のような単純なことで、家族が崩壊する…」この論理合わせが難しい。

普通なら、like misunderstandings とか like children's drug use などといった分りやすい例が続くと思いますが、それでは joke にならないから、wild dog ときたのでは？

この論理の前提は「野犬は人をかみ殺してパ、ラバラにする」という含意ではないですか。

ネットで調べてみると、今年の夏、米ジョージア州で野犬が散歩中の愛犬夫婦をかみ殺す、という事件があり、野犬論争がイマ愛好家、社会秩序派の間で激しく行われています。

出題のフレーズが出来た時期との関連は不明ですが、「野犬が人を殺すといった単純な理由で、家族が崩壊…」これならジョークになるのでは、というのが私の解釈です。

The family was torn apart. は家族が崩壊する場合の隠喩ですが、これを「野犬が喰いちぎって殺す」という直接的な意味にかけたのでは、と思うのです。



2) イギリスに代表される西欧文明に深い不信を持つていたガンジーなら、cynicism を込めて「西欧文明なんて(そんなに有り難がるものではなく)、まあ良いと思いつきの一つ程度」と述べた

のではないかと、思料します。



3) pink elephants は Walt Disney の映画 Dumbo に出てきます。Dumbo は酔っ払って pink elephants が歌ったり踊ったりする幻影を見ます。Pink Elephants on Parade として有名です。

この部分をアニメ作家 Michael Sporn が色々な作品にして配信しています。そこで「Michael に用なら、きょうはまだ来ていないよ」と barman が言ったのでしょうか。

4) 前の問題と関係がありますが、酔っ払って象がピンクに見えたのなら、逆に象が酔っ払えば、人間がピンクに見えた、ということでは？

5) これには頭を悩ました。Jewish joke は彼らの特性をコケにすることで成り立ちますが、ここでは「ユダヤ商法」がテーマではないかと考えます。

1,000 円の品を 999 円として、「割安感」を出す商法を編み出したのは、アメリカの小売業を支配したユダヤ人だといひます。

この延長線上に、ラジオの周波数まで「本当は 1500 だが、あなたにだけは(割引の) 1480 で聞かせてあげる」とくれば、痛烈なジョークになります。

6) 客はしゃっくり(hic-)をしていますから、既に「出来上がっている」のでしょうか。stewed prune は砂糖煮のデザートで、確認したウエイターに、客は怒り、「てめえの知ったことか」とどなり返します。

stewed には口語で、intoxicated, drunk の意味がありますので、客は「お客様、お酔いひびきと聞かれたと誤解したのでは。

7) これは素直に取ればよい例だと思えます。ピョン、ピョンと前列近くまで来たノミ君は、象の背中でもう一安心。誰も象を押しつけては進めない。

8) この問題も相当タフですね。a fat bird はもちろんデブ女。彼がご機嫌で一人運転しているということは、既に相当きこしめしている

わけで、警官に制止されて当然。

普通、デブ女は男性にとって「魅力なし」とされますから（太目の女性、ご容赦を！）、「オレが酔っ払っている」と疑うのは、（酔眼朦朧で見境無しに）デブでも拾ったということかと食ってかかった、と読み解きます。

酔っ払いながらからめ手から逆襲する、運転者のとっさの機転に拍手！

9) 夫婦ブリッジで、夫がむこうずねに傷だらけ、ということは、「遅いわ！」「そんな手ずるい！」など難癖をつけては、妻がパートナーを蹴飛ばしている、という図が浮かびます。ひょっとして、夫もそれを楽しんでいるのだとすると、鳩山夫妻とは違った「サド・マゾおしどり夫婦」ということに？！

新堂 睦子

さすが安藤さんの出題!! 頭の中が真っ白になりました。下は脳みそを絞り出した結果です。

1) 家族は家族でも、ウサギの家族？
2) 「確かに西洋文明は理念、観念としては立派なものでしょう。」しかし現実には西洋文明の名の下に、インドはすさまじい収奪にあいました。

3) Allow my imagination to run wild. To see pink elephants は酒、薬等で幻覚を見ることがと思います。



パーティーダーは既にかなりきこしめしていて、幻影を見て、お客さんマイケル・ジャクソンはまだですよ。」といます。マイケ・ジャクソンは、ヒットアルバム「スリラー」のゾンビのなりでやってくるのでしょうか。

か。それとも本物のゾンビとして？ こわい!
4) 酔っばらうと、人は pink elephants の幻覚を、5) 象は pink people を見るのですね。
5) 外人記者の一人が次のステーションプレイクを聞いたと断言しています。「こちらテル＝アビゾ ラジオ AM 放送、周波数 1500、ただあなたには周波数 1498 です。」

西暦 1498 年、スペイン国王はユダヤ人追放令を出し、カトリックに改宗しないユダヤ人は国外に追放されたと聞きます。

6) 「ウイアー、ウエイター、ブルーンを一皿持っでこい」「煮込んだものでしょうか」「まーきなお世話だ」(酔っばらっついていて、大きなお世話だ)といえないようです。

7) ノアの箱船に乗船する行列の長さにはやになり、ノミが一匹動物たちの背中をピョンピョンとんで象の背中にとびおりました。この厚皮動物がつかあいに、いろいろ



しているには、「やっばりなー、ノミのやつ、また、おしあひしあいしてる」

(象とノミの組み合わせ、厚皮の象がちっぽけなノミの着地を感じることに私は笑いました。)

8) 「酒を飲んでおられますか」「なに、おれの車にデブの鳥でも乗っているのか」(十分にできあがっていて、自分を鳥と認識しているよう)。

(デブという言葉は、not politically correct ですね)

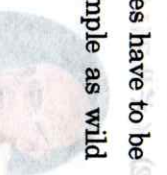
9) ブリッジでも、ホーケー、サッカー並のとつくみあいをこのご夫婦はするのですね。

土屋 政雄

途中までやってしばらく放っておいたら、問題をなくしてしまいました。申し訳ありません。

1) “Wild dogs killed Ga. woman, then husband.” という記事があり、
http://www.breitbart.com/article.php?id=D9A5GDI61&show_article=1

これに関して、
“It’s too bad that whole families have to be torn apart by something as simple as wild dogs.”



というコメントがありました
http://www.reddit.com/r/WTF/comments/9c1fs/ack_of_wild_dogs_kills_elderly_couple_in_georgia/mobile (Hubso のコメント)。

率直な感想なのか、あるいは似たような諺があつて、それをもじつたのか……？

2) あつたらすばらしいね。
(Western Civilization などというものは存在しないの謂)。

“Western Civilization? That Would Be A Good Idea” という歌があります。

http://www.lyricsmania.com/lyrics/heideroo_sjes_lyrics_1928/smile_youre_dying_lyrics_4980/western_civilization_that_would_be_a_good_idea_lyrics_59326.html

4) 5) 人間がピングのゾウを見るなら、ゾウがピングの人間を見てもおかしくない。とくに、こんな美を食べたゾウなら。

<http://www.youtube.com/watch?v=wos1HX9VI0>

6) 「少しまけてやってもいいぜ」というような乗りでしょうか。

小澤 正樹

1) これは一コマ漫画だと思います。居間のソファや椅子の脚や敷物がぼろぼろになっている。険悪な表情で立ちつくす家族のかたわらで、満



足げな顔をした犬がすやすや寝ている、という図でしょうか。犬はソファで

けでなく家族の平和も tear してしまつたようです。

2) “What about a drink?” “Good idea!” と同じようなレベルで西欧文明を片付けてしまったガンジーのスケールの大きさ。ちよつとなまつた、訥々とした英語で語られると、さらに可笑しい！

3) ベロンベロンになると見えるというピングの象。でもライケルの場合には不可分の存在のようです。象の方も当然お呼びがかかると思つて来たんでしょう。バーテンの象に対する態度も慣れたもんです。

4) 象の世界もいろいろあるんでしょうね。

5) 商魂たくましい trailers ビングの人々。ダンナだけは安くしときませず。でも周波数までまぢちやうの？で、たった2キロヘルツだけ？

6) stewed? をウエイターは stewed prunes? のつもりで聞いたのに、酔っぱらいは drunk? と聞かれたと思つたんでしょう。

7) これも一コマ漫画が目には浮かびます。いろいろしながら箱船に乗るための長い列に並んでいる象のカツパル。他のちっぽけな動物と同じ扱いに不満があるのか、なにかにインネンをつけたくて仕方ないようです。そこにノミが背中を押す。「な、こんなことだと思つたよ。人を押すようなマナーのない連中ばかりだ」。

8) これ、わかりません。くやしいなあ。

岡田 茂富

Is this a kind of joke? I have had to rack my brains while reading these English jokes and have almost given up. Thank you very much, Mr Ando.

My answers:

1) I thought “like a pack (of wild dogs) is torn apart usually” was the point. And I searched a hint on the Internet and found this.

IT'S A SHAME THAT A FAMILY CAN BE TORN APART BY SOMETHING AS SIMPLE AS A PACK OF WILD DOGS.

ALBUM BY ED GEIN.

2) “I think it would be a good idea (to ask that question if it had been what it is called a Western Civilization.)” Gandhi did not believe in a Western Civilization.

3) Mick Harvey released two albums: the first one was “Intoxicated Man” and “Pink Elephants” followed. Pink elephants are a drunken hallucination.

The barman told them their producer “Intoxicated Man”, Michael (Mick) hadn't been in that evening.

4) The intoxicated man sees pink elephants

- and the other way around the elephant drinks so much as to start see pink people. I wish to have a pink dream.
- 5) Are Jews so stingy that they cut down even the frequency number in the station break?
- 6) The waiter asked "Stewed (prunes), sir?" while the drunken man took it as "Are you stewed (=drunk), sir?" That's why he indignantly slurred, "Thash none of business."
- 7) It's funny a big elephant with thick skin responds to the touchdown of a tiny flea on its back, feeling a multitude of animals are pushing and shoving.
- 8) Why is this man with a fat woman when he drinks? I don't know. Maybe his wife is a fat bird and he cannot help drinking when he is with her. So he is happy when he is not with her.
- 9) I have learned for the first time that playing bridge calls for a covert exchange of hard kicking between a pair of players under the table

REENTER THE QUESTIONER



コメントは解答者ごとに掲載されていますので、僕は辞書の串刺し検索のように、質問ごとにハンドルします。

質問 1：何を下敷きしているか？ 服部、岡田両氏の Edd Gein 説と、宮本、土屋両氏のジョージア州野犬事件説が拮抗。

僕は、宮本さんの torn apart のダブル・ミーニング (野犬が喰いちぎる、家族が崩壊する) がツボとの説明に納得しました。だけどこのブラック・ムーブには笑えません。

質問 2：「ガンジーは西洋文明が存在するとは思っていない」と明解な岡田さん。「あつたらすばらしいね」とはさすが土屋プロ。

このジョークは短くかつ解釈に議論が起きるので、本会のジョーク・コンテストで健闘するタイプでしょう。

さらに定型として応用が利きそう：“What would you think of Japanese sense of humor?” “I think it would be a good idea.” なんちゃって。

質問 3：マイケルの身元については、宮本さんが服部さんと同じ見解で、丁寧な説明。だが残念！それでも僕は笑えない。

質問 4：多数派 5 人のコメントに対し、孤高の小澤説に注目したい：「ソウの世界でもいろいろあるんですよ。」そう、だからソウもときには酔っ払って、ピンクの間人を見るのよ。

質問 5：親切な宮本節、セリフが上手い土屋、小澤のご両人。僕には目からうろこでした。ツボがわかるとホント可笑しい。

さらに本会の真価を感じさせるのは、服部さんの 1498 人説と、新堂さんの 1498 年説でしょう。これだけ口からデラカセを言える、もとい、創造的になれるとはスゴイ。

質問 6：stewed に drunk の同義があるとは知らなんだ。僕の愛する和訳不能型ジョーク。

質問 7：ツボが解るとホント可笑的。岡田さんの説明力に脱帽。一番共感できたのは、新堂さんの「厚皮のソウが、ちっぽけなノミの着地を感じる…」でした。

質問 8：これは難問か愚問か？ 4 人の方のコメントを縦に並べて検討したが、笑えない。

質問 9：ブリッジ入門中の僕の我田引水問題。服部さんと宮本さんの cultural literacy はさすがですね。岡田さんのコメントはそれ自体が立派な bridge joke になっている。

総括：残念ながら、ツボが解っても可笑しくないジョークがありましたね。ツボが解らないジョークを出題する今回の趣旨は、ここが challenging です。

第一番に解答を寄せてくれた服部さんをはじめ、6 人の解答者のみなさんありがとうございました。ゼロ回答でなくほっとしました。このご恩は忘れません。